



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

- ・一般 苦しんでいる隣人への奉仕に励みますように
- ・宣教 イエスを証しする心を抱くよう導かれますように
- ・日本 平和憲法の価値を理解し共有できますように

日本の信徒発見150周年を祝う

教皇特使ケヴェド枢機卿と共に記念ミサ

皆さんの歴史は、神の愛の物語です



た。日本語で司式を引き継いだ高見大司教は説教(3面)で、日本におけるキリスト教の歴史を振り返りながら、迫害の中にあって「密かに組織をつくり、子どもたちに洗礼を授け、オラショを唱え、教えを学び、教会の暦を守り、慈悲の所作を実践しながら信仰を生き、守り、子孫に伝えた」人々と、彼らを絶えず守り導いた神に感謝をささげた。棄教か殉教かを迫られた時、信仰を心の内に秘めてまでもそれを伝えることを決断した彼らのおかげで、日本の教会は再出発できたと指摘し、「日本の教会の復活のための踏み台のような役割を果たした」と述べた。そして信仰を伝えることに關してさまざまな問題を抱えている私たち、彼らの模範に倣うと同時に、子孫だけでなく「すべての人に」信仰を伝えようと呼び掛けた。

3月17日(火)、杉本ゆりをはじめとする浦上のキリシタンたちが、ベルナル・タデー・プティジャン神父に信仰を告白して150年を迎えた。今年からこの日を「日本の信徒発見の聖母の祝日」として祝う日本の教会は、教皇フランシスコによって特使に任命されたフィリピン・コタバト教区大司教オルランド・ベルトラン・ケヴェド枢機卿(右写真)と共に、司祭と信徒との出会の舞台となった大浦天主堂で記念ミサを行い、先祖への感謝と「すべての人に」信仰を伝える決意を新たにした。

記念碑の祝福

17日午前9時頃、大浦天主堂に到着したケヴェド枢機卿は、10時からの記念ミサを前に、信徒発見100周年記念碑(レリーフ)がある天主堂左手の庭園で「日本の信徒発見百五十周年記念」の碑(石柱)を祝福した。9時半、多くの参列者が見守る中、枢機卿は高見三明大司教の招きの言葉に続いて「信仰と敬けんな心とのしるし」であ

記念ミサ

10時からの記念ミサには、各教区代表者・長崎教区の小教区代表者・教区シノドス議員・修道会代表者・キリスト教各派と諸宗教の代表者ら約200人が招待された。聖歌と共にケヴェド枢機卿、高見大司教、駐日ローマ教皇庁参事官ヘルヴェオイエ・

るこの記念碑に灌水と献香を行い、英語で祝福の祈りを唱えた。

シクルレツツ師、国内外の司教団・司祭団、パリ外国宣教会総長ジョルジュ・コロンブ師と日本管区長オリビエ・シエガレ師らが入堂。来賓紹介の後、シクルレツツ参事官が教皇フランシスコによるケヴェド枢機卿の特使任命書をラテン語で朗読した(下囲みに邦訳)。

杉本ゆりらによる信仰告白の場面を再現した劇に続き、ケヴェド枢機卿のラテン語による開祭のあいさつでミサが始まっ

洗礼式

説教の後、洗礼式が執り行われた。受洗者は中田弘美さん(稲佐教会)、橋口亜希さん(木鉢教会)、奥村紀昭さん(大浦教会)の3人。ミサ後、橋口さんは「主人がカトリックで、結婚を機に勉強し私もカトリックになりたいと思いました。今日この日に洗礼を受けられて、素晴らしいことだと実

敬愛する兄弟

コタバト大司教区大司教

オルランド・ベルトラン・ケヴェド枢機卿様

このたび、愛する日本の地に住む信者の皆さんは、250年にわたり、ひそかに、しかし不屈の精神で霊的な歩みを続け、主のみことばを熱心に学んで心におさめ、信仰の宝を次の世代、さらに次の世代へと忠実に伝えていったキリスト信者が発見されて150年目にあたる記念の時を荘厳にお祝いしています。昨年の1月、わたしは(ローマでの)一般謁見の場で、彼らキリスト信者のことを思い起こし、日本の教会に対する迫害について、そして殉教者の証しが今のこの時代においても重要な意味を持つことについて話しました。あの当時、日本には一人の司祭もいませんでしたが、信徒たちは洗礼の秘跡を執り行って共同体の精神を表し、祈りと聖書の黙想によって霊的いのちを養いました。そして、宣教師たちが戻ってきたとき、潜伏していた多くのキリスト信者がその素晴らしい信仰と希望と愛を表明してキリスト信者であると名乗り出たのです。

この記念の日を迎え、日本においてはさまざまな行事が行われることでしょう。その中で、すべての人々が、あの信者たちの模範を思い起こして、救い主の鷹揚さを高らかにたたえ、そしてキリストの光に照らされて生活を刷新し続けようとの促しを感じ取ることでしょ

う。そのために、敬愛する東京大司教であり、日本カトリック司教協議会会長であられるペトロ岡田武夫大司教様と、敬愛する長崎大司教区のヨセフ高見三明大司教様は、わたしに温かい手紙をしたためて、お祝いにお招きくださいました。お招きいただき、大変うれしく思い心に留めております。そしてわた

しは、長崎においてわたしに代わり、参列しているキリストの弟子である方々へのわたしの親愛の情をお伝えするのにふさわしい方を探しました。

そして、コタバト大司教区を賢明に導いておられる、敬愛する兄弟、ケヴェド枢機卿様、あなたのことが心に浮かびました。長崎市において、来月3月14日から同17日まで荘厳に挙行される祝祭を執り行うよう、本状をもって、あなたを「わたしの特使」に任命します。

感謝の祭儀を司式し、ご出席の大司教、司教、司祭、男女の修道者、長崎県知事ならびに長崎市長、そしてすべてのキリスト信者の皆様に、わたしの名によってごあいさつをしてください。ご参列の皆様に、あなたの言葉をもって、キリストの生涯に倣うよう励ましてください。わたしは、すべての人が、感動をおぼえずにはおかぬ日本の教会の歴史を思い起こし、またかくも多くのキリスト者の証しを心に留めて、新しい力、新しい熱意をもって教会に対するキリストの愛とその福音を表明し、ペトロ・カスイ岐部と187人の同志殉教者の執り成しによって、日々の生活の中で、信仰を生き生きと輝かせるものとなるよう望みます。

敬愛する兄弟である枢機卿様、今回わたしの使節としての使命をお果たしになるにあたり、わたしは祈りによってあなたと心をつにしています。あなたに対するわたしの厚情のしるしであり、神の賜物の保証である使徒的祝福をあなたに委ねます。祭儀に参列されるすべての人に、この使徒的祝福を伝えてください。

パチカンにて 2015年2月15日

教皇登位2年目

フランシスコ

感じています」と喜びを語った。

教区シノドスの閉会

拝領祈願後、教区シノドスの閉会式が行われた。高見大司教は、2月19日の大浦天主堂献堂150周年記念ミサの中で署名した「教区シノドス提言の公布」



(3面)を読み上げた後、教区シノドス提言書「父の家に帰ろう、そして出かけよう——神のいくつくしみを共に生き、伝えるために」を司祭・修道者・信徒の代表に手渡した。司教総代理の小島栄師は「いただいた提言書に基づき、司祭団・修道者・信徒一同が協力し、教区刷新のために尽力いたします」と決意を表明した。

メッセージとあいさつ

続いてケヴェド枢機卿が英語であいさつ(2面に邦訳)し、教皇フランシスコが昨年1月15日の一般謁見で説教したように、全世界のキリスト信者は日本の教会の歴史から多くのことを学ぶことができると語った。「皆さんの歴史は、子どもたちとその子どもたちが他の人たちに伝え、また伝えることのでき



る宗教的な叙事詩です。なぜなら、それは最終的には、皆さんに對する三位一体の神の愛の物語だからです。」そして潜伏キリシタンたちの「祈り」「マリアへの信心」「教皇への忠誠」「信仰を学び、生き、分かち合うこと」は、「私たちに、名前だけでなく実際にキリスト信者としていかに生きるべきか」を思い起こさせると述べた。

その後、シクルレツツ参事官が日本語で「私たちのムネ、つまり私たちの心が誠実であるなら、互いに思いが通じ、一つの心で結ばれ、共通の善のために共に働いていくことができま

す。これこそ長崎が発するメッセージではないでしょうか」と語り、今も鳴り続ける「長崎の鐘」は、私たちに「平和・希望・愛」を伝えようとしていると結んだ。最後に、日本カトリック司教協議会会長の岡田武夫大司教が教皇とケヴェド枢機卿への感謝を表すとともに、この日が日本の福音宣教の新しい始まりとなるようにと期待を語った。

ケヴェド枢機卿のラテン語による派遣の使徒的祝福をもって、記念ミサを終えた。

(オブジェクト会員)

記念ミサにおける高見大司教の説教



記念ミサ (3月17日・大浦天主堂)

1. キリスト教は、日本に導入されて以来、多くの日本人に受け入れられました。しかし、発展するに伴って、政治権力を握っている人にとって、人間は皆神の前で平等であるという思想や、苦しむ人や貧しい人を助ける行為も、権力者に対して逆や一揆を起こす温床をつくることになると思われました。また特に、当時のヨーロッパの列強が宣教師を送ってキリスト信者を増やした後、日本を占領に来るにちがいないと恐れをい

2. 1614年に禁教令が布達されて以来、キリシタンたちは、信仰は決して捨てたくない、しかし、殉教すれば、信仰が伝達されず、滅びてしまうかもしれない

3. しかし、彼らは、密かに組織をつくり、子どもたち洗礼を受け、オラショ、つまり祈りを唱え、教えを学び、教会の暦を守り、慈悲の所作を實踐しながら、信仰を生き、守り、子孫に伝えました。教えの中でも、①ローマのお頭様、つまりパパ、教皇様、②その教皇様が派遣する独身の聴罪司祭、つまり罪を聞いてゆるしを与える神父、③サンタ・マリア様の執り成しや保護のことを、基本的な要素として確実に伝えていきました。

それにしても、お上にはキリシタンであることを隠して檀家を装い、信仰をこころの内に秘めながら子孫に伝え、七代、250年間、生き延びたことはどれほど辛いことだったろうかと

想像します。そのような中で、彼らは、何とか信仰を伝えて、つないでいかなければならないという強い望みに突き動かされて、表向きだけでも信徒として、指定されたお寺の檀家になりました。その中で、殉教のこと、潜伏時代の信仰生活のことなどを、生きた証しとして伝えてくれました。

3. しかし、彼らが実に粘り強く、信仰を守り、伝えてくれたおかげで、日本の教会はいのちをつなぎました。そして、殉教のこと、潜伏時代の信仰生活のことなどを、生きた証しとして伝えてくれました。

彼らが信仰を伝え、キリスト信者として生き残ってくれたおかげで、日本の教会は、新たに宣教師を迎えた時、再出発することができました。日本の教会の、いわゆる復活のための踏み台のような役割を果たしたことになります。もし、キリシタンが一人も生き残らず、その状態が100年や200年続いていたとすれば、日本の再宣教は不可能に近かったかもしれません。なぜなら、キリシタンは、邪宗門であり、邪教徒あるいは邪徒であると呼ばれて、ほとんどの日本人に忌み嫌われていたからです。

わたしたちは今、信仰を伝えることに、さまざまな問題を抱えています。だからこそ、信仰を伝えていくために、これまで以上に努力をしなければならぬと思います。その一つに、次の世代を担う子どもや若い人たちと一緒に祈り、一緒に学び、一緒に隣人愛の実践を行うことが考えられます。とにかく「一緒に」祈り、

信徒発見150周年と教区シノドスを機に 教区のシンボルマークを変更

刷新の道を歩み始めるこの機会に、これを長崎大司教区の公式シンボルマークとして決定したいと思っています。



区の公式シンボルマークを決定しました。

当時の長崎教区には5つの地区があったた

紀元2千年の大聖年に、島本 要大司教様は、「大聖年から次の聖年までの長崎大司教区に行く手を示すシンボルとなるようにとの思いを込めて、21世紀の長崎大司教

めに、炎の数が5つでしたが、その後地区が7つに増えましたので、今回その数だけを変更しました。日本の信徒発見150周年を記念し、特に教区シノドスに基づいて

同時に7は充滿や全体性を表すので、長崎の教会が全世界の教会と一つにつながって理想の教会を

刷新の道を歩み始めるこの機会に、これを長崎大司教区の公式シンボルマークとして決定したいと思っています。これには次のような意味が込められています。①長崎の頭文字Nをかたどった、赤い色の7筋の炎の形は、殉教者の血と信仰の炎に育まれた長崎大司教区を表している。②7つの筋は、長崎大司教区内の7地区を表す。同時に7は充滿や全体性を表すので、長崎の教会が全世界の教会と一つにつながって理想の教会を

2015年2月19日
大司教 高見 三明

教区シノドス提言の公布

ローマの使徒座との交わりの中で
主イエス・キリストの使徒の後継者、長崎大司教として
教会と世の福音化のために派遣された、キリストの福音の奉仕者
わたくしこと ヨセフ 高見 三明は
2011年4月から3年にわたる準備期間を経て
2014年5月4日に教区シノドスの開会ミサを行い
5月4日～6日、7月20日～21日、9月14日～15日、11月2日～3日の
4会期にわたって本会議を開催し
第4会期において全代表議員により採択された提言を承認し
それに基づいてわたくしがまとめた提言書

父の家に帰ろう、そして出かけよう
— 神のいつくしみを共に生き、伝えるために —
をここに公布する。

本提言書は
教区シノドス代表議員によって採択された提言と共に
次回の教区シノドスまで長崎大司教区の方針および活動指針として
信仰と愛をもって守られ活用されるべきものである。

わたしたちの内に働く御力によって、
わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、
はるかに超えてかなえることのおできになる方に、
教会により、また、キリスト・イエスによって、
栄光が世々限りなくありますように、アーメン。
(エフェソ3・20～21)

2015年2月19日 大浦天主堂献堂150周年記念日に

カトリック長崎大司教 ヨセフ 高見 三明

署名

Joseph M. Takami



司祭・修道者・信徒の代表に教区シノドス提言書を授与

えなければなりません。キリスト信者は皆その使命を与えられ、それを果たすよう常に招かれています。

4. 最後に、実に皮肉なことといえるのですが、今年の1月、日本政府は、日本のキリスト教の歴史に普遍的な価値が認められると判断し、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界文化遺産登録に向けて正式にユネスコに推薦しました。普遍的な価値の一つは、潜伏キリシタンが、人間として、また

信仰者として、あらゆる逆境の中にありながら自分たちの信仰を貫き、守り伝えた姿に示されている人間の尊厳と気高さにあると思います。これは、わたしたち日本のキリスト信者にとって、キリスト教をより正しく、より広く知っていただくチャンスになると思います。キリスト教を信奉することを徹底して禁じた時代が259年に及び、その間、キリシタンは、ただキリスト信者であるということだけで、弾圧と差別を受け続け、数千人の殉教者も生まれました。キリスト信者は今に至るまで、日本においては極めて小さな少数派ですが、フランシスコ・ザビエル神父の来日以来、日本の歴史に少なからず影響を与えています。たとえば、檀家制度や鎖国は、キリスト教禁令なしには説明がつかないもの

です。ともあれ、少なくともこれから

は、キリスト教が日本社会でも認知され、正しく理解され、少しでもいい影響を与えて、発展するためにこの動きをチャンスとして生かしていかなければならないと思います。そのためには、わたしたちキリスト信者がまず自分の信仰を正しく理解し、よりよく生き、周囲の人々と分かち合うことができる



記念ミサの閉祭

2月中旬に、今村教会から国宝大浦天主堂への3日間徒歩巡礼を実行した。1867年浦上キリシタンが今村キリシタンを探し当て、喜び勇んで長崎に帰り、大浦の司祭に報告に行ったことを想像しながら歩いた▲徒歩巡礼のゴール・大浦天主堂でしばらく祈り、五島に帰るためタクシーに乗り込んだ。運転手がわたしのリュックを見て「旅行中ですか」と聞くから、事実をありのまま「たった今、諫早から大浦まで歩いてきたところだ」と答えたら、「お客さん、ご冗談でしょう」と言われ、はばかりに笑われた▲わたしはムツとして「今日だけじゃなくて、福岡の大刀洗というところから3日間歩いて大浦に来た」と答えると運転手は黙ってしまった。徒歩巡礼を成し遂げたその事実が、相手を圧倒し、黙らせたわけだ。二十六聖人は京都から長崎を歩いた。道行く人、連行した役人たちを黙らせるには十分すぎる迫力があったに違いない▲キリスト者はキリストを知らない人や信じない人に対して、何か圧倒するもの、良い意味で黙らせるものを持っておくべきだと思う。何十年と続けてきた朝夕の祈りだつて、十分に圧倒的な証し、人を黙らせる力ある証しである。そうした証しがかつてはそこそこにあつたから、司祭が250年奪われても、また大勢が命を落したり配流されたりしても信仰が伝承されてきたのではないだろうか。(K・N)

ほしかげ

日本の信徒発見150周年を記念する3日間の祈り

長崎の教会は、恵みの節目に行われる3日間の祈り(トゥリドゥウム)を大切にしてきた。1962年の日本二十六聖人列聖1000年祭、65年の日本キリスト信者発見1000年祭、今回の日本の信徒発見150周年。いずれも典礼が行われたのは、牧者を探し求めた人々が感謝と償いをさげた地に建つ「浦上教会」潜伏キリシタンたちを抱き続けた殉教者の聖母に献堂された「中町教会」(現在は聖トマス西と十五殉教者)そして司祭と信徒の出会いの舞台となった「大浦天主堂」である。

3月15日(日)——浦上教会

聖母行列と信徒発見記念ミサ

ヨセフ、クララ、フランシスコ・ザビエル)も祝福され、翌日、聖堂内に安置された。



午後2時、信徒発見の様子を伝えるブティジャンの書簡が朗読された後、長崎中地区6小教区の小中学生が中心となつて編成された聖歌隊の歌声の中、日本の信徒発見150周年記念ミサが始まった。

信者たちは2つのグループに分かれ、秘密教会跡から浦上教会まで聖母行列を行った。本原方面からは、12時半に聖マリア堂から聖ヨゼフ堂に向かい45分に出発式、大橋方面からは13時にサンタ・クララ教会跡で出発式を行い、被爆マリア像と共に聖フランシスコ・ザベリオ堂跡を経て、ロザリオの祈りを唱えながら浦上教会へ向かった。行列到着後、13時40分から浦上教会入り口に設置されたレリーフが除幕、高見三明大司教によつて祝福された。これは中田秀和氏の絵画「旅への門出」をレリーフにしたもので、浦上四番崩れで全国に配流された信者たちの姿が描かれている。続いて、4つの秘密教会がその名をいただいた4体の聖人像(マリア、

祭になることを決意された方」と紹介し、信徒発見と日本の教会にゆかりのある司教と共に、3月17日に先立つて記念のミサをささげることの感謝と喜びを述べた。

大司教は「浦上にとどまらず、日本の信者たちの代表ともいえる」浦上のキリシタンの決断とその後歩み、日本の教会の再出発につながったと説教した。「迫害下にあった人々は仏教徒を装ったが、心では神に忠実であらうとした。絵踏みに良心の呵責を感じていたことだろう。それでも、このような痛悔と『こ



んちりさん」の祈りが、信仰をつないできた。これは神の恵みとしか言い様がない。司祭と出会った時、彼らは勇気をもって寺と縁を切った。そのため捕らえられ、彼らが『旅』と呼ぶ配流の苦しみを得た。しかし1873年に禁教令が解かれた

3月16日(月)——中町教会

片岡千鶴子修道女の講演と十六聖人殉教者記念庭園祝別式

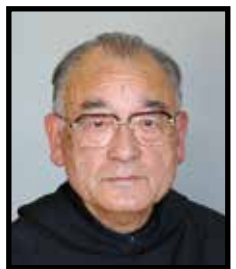
中町教会では17時、日本の信徒発見150周年記念事業の一環として整備が進められてきた、聖トマス西と十五殉教者記念庭園祝別式が行われた。

十六聖人(日本人9、スペイン人4、イタリア・フランス・フィリピン人各1人)は1633〜37年に西坂で殉教した殉教者たち。16体の銅像と記念碑が設置された庭園の祝別式は高見三明大司教が司式を務め、信者ら約

テレビアナス

末吉矢作神父

(コンベンツァル
聖フランシスコ修道会)



3月19日、急性心臓死のため逝去。89歳。

1925年6月18日佐世保市黒島町生まれ。黒島教会で受洗。田平教会出身。46年入会、47年初誓願、51年終生誓願。54年12月8日イタリア・ローマ聖マルチェロ教皇殉教者聖堂で司祭叙

階。東京・聖ボナベントラ神学院で哲学・ラテン語・音楽を教える。また、管区長、各学校の校長や理事長、園長、修道院長、修練長、小教区主任、聖母の騎士社代表などを歴任した。2009年からけがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会本部聖堂付司祭。14年から東

長崎教会助任を務めた。朗らかな性格で聖母信心があつく、神学生、シスター、信徒に多くの講話を行った。

葬儀ミサ・告別式は3月22日、同修道会日本管区長の崎濱宏美司司式により、本河内教会で行われた。

ジョン・

クラークス神父

(イエス会)



3月30日、心筋梗塞のため東京・ロヨラハウスで逝去。92歳。

1922年8月2日米国・セントルイス生まれ。54年6月16日カンザスで司祭叙階。55年来日、61年東京カトリック神学院(現日本カトリック神学院東京キャンパス)で教義神学・基礎神学を教える。

山口教会主任、宇部教会助任、長崎・立山黙想の家所長(71〜80、95〜2002)など歴任。02年フィリピンのアルペ国際学院で霊的指導・英語指導、05年二十六聖人修道院、14年からロヨラハウス。

本紙14年3月号では、「私にとっては、長崎の黙想の家が最も喜びをもつて働いたところだ。90代の日々を有意義に送り、できれば人々をよりいっそう導きたい」と語っていた。

葬儀ミサ・告別式は4月7日、東京・麹町教会で行われた。また長崎では19日聖フィリッポ教会で追悼ミサがさげられた。

3月17日(火)——大浦天主堂

連続ミサとゆるしの秘跡

この日大浦天主堂では、招待者のみの参加となった10時の記念ミサの他に、計6回(6時半、8時、13時半、15時半、17時、19時)の連続ミサが行われ、東京フランス語カトリック協会、教区内外の巡礼者らが祈りの時を過ごした。また、大浦教会では終日、ゆるしの秘跡も行われた。

朝6時。夜明け前から天主堂下の門に並んでいた多くの人が堂内へと案内された。一番ミサの主司式を務めた頭島光師(レデンプトール会)は説教で、150年前の出来事が神の導きだと触れ、「しっかりとした信仰を持って、告白して、宣言して、宣教していくのが私たち一人一人の使命」だと話した。

3月15〜17日にかけて長崎を訪れたという広島三篠教会の方は、「感



らを招き約260人の参加のもと行われた。純心女子高校音楽部の合唱や150周年を機に結成されたサンタ・マリア楽団の演奏、神ノ島教会有志による朗読劇などが披露され盛大に祝われた。

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 TEL (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 TEL (0957) 50-3008

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

2015年度 週刊『こじか』新連載のご案内

主日の福音解説を中心に、多彩な記事で子どもたちにイエスさまのまなざしを伝える「こじか」。カトリック長崎大司教区 信仰教育委員会作成の初聖体準備のテキストをもとにした「神さま、こんにちは!——初聖体のじゅんぴのために」が好評連載中です。

☆毎週日曜日発行(年44週)
☆定価 65円(税・送料別) *団体割引有り
☆国内年間定期購読 1部 4,100円(税・送料込)
☆お申し込み、お問い合わせは下記まで
オリエンズ宗教研究所
〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
24時間営業
五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

中村手造り
ポリアソソーセージ

200g 600g 900g 1400g
上記4アイテムの品揃え
全国配送(有料)いたしております。

お肉のご用命は

(有)ナカムラ
ミートセンター

代表 マリア 中村 夏子
TEL (0956) 46-1998
FAX (0956) 46-1984
佐世保市柚木元町 2401-10

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい ⑮

世界遺産登録を目前にして

―長崎の教会群とキリスト教関連遺産―

宝亀教会信徒 松田隆也

はじめに

いよいよ現実味を帯びてきた世界遺産登録に向けて、これまで長崎大司教区をはじめ行政や地元住民との連携のもと、構成資産の保存管理や機運の醸成に努めてきましたがいよいよこれからが正念場となる今日、私は教会運営に関わる信者としてだけでなく、地元自治体の担当者として、これから私自身何ができるかを含めて考察してみたいと思います。

長崎の教会群がなぜ世界遺産になるのか

「長崎の教会群」は、長崎県および熊本県の半島部や離島部に点在し、その特徴的な成立の過程から、16世紀の東西文化交流とキリスト教の繁栄を示す城跡・信仰が密かに集落の中で継承され、実に450年以上にも及ぶ、日本におけるキリスト教の伝来と地域において受け入れられてきた状況を示す歴史的遺産です。その歴史は決して平坦なものではなく、「伝来と繁栄」「弾圧と潜伏」「復活」という、世界でも類を見ない独自の歴史が長崎で展開されたのです。

これにより、日本と西洋の価値観の交流を物語る遺産となり、その交流が、禁教時代の面影をとどめる集落景観や文化的伝統、および日本と西洋の建築文化が融合した教会建築に影響したことや、450年に及ぶキリスト教の伝播と浸透のプロセスの中で、日本的な生活環境、自然環境および民俗的習慣に独自の形態で順応した宗教的・文化的伝統が形成されたことを物語る希有な物証として、高い評価を受けているのです。従って、今回世界遺産登録を目指す「長崎の教会群」は、城跡・集落・教会建築という3つのグループに分けられる14の構成資産から成り立っており、世界遺産としての「顕著な普遍的価値」や「真実性」「完全性」を証明しています。

平戸市の構成資産の特徴

若干、私の地元の構成資産を紹介します。平戸市は、14資産のうち、「田平天主堂」「平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳）」「平戸の聖地と集落（中江ノ島）」の3資産を有します。

田平天主堂は、1918（大正7）年に竣工し、2003（平成15）年に国の重要文化財に指定されました。鉄川与助の煉瓦造教会堂の中では最後のもので、外観、内観とも全体的に均整のとれた構成であり、司祭館をはじめ、門柱石段、石垣など、周辺の歴史的環境がよく保存されている教会です。

一方、平戸の聖地と集落は、安満岳や中江ノ島を含む春日集落一帯を指し、2010（平成22）年に国の重要文化的景観に選定されたところです。潜伏時代には、教会堂の代わりにご神体や殉教聖地などを信仰の対象とし、「オラショ」と呼ばれる祈りやさまざまな儀式を行ってきました。そして、生月、平戸の潜伏キリシタンの子孫の多くは、禁教政策が撤廃されてからも、先祖から伝わる独自の信仰形態を継承し、その文化的伝統は今も「かくれキリシタン信仰」として一部の組織に引き継がれています。中でも、16世紀に造られたキリシタン墓地が禁教時代も引き継がれ、聖なる森として現在でも大事に祀られるなど、平戸独自の景観をつくり出すことにつながったのです。

世界遺産登録に期待すること （行政として・信者として）

長崎県においても人口減少が叫ばれる中、今回の世界遺産登録が実現すれば、過疎化が進む農山漁村集落の再生を図る有効な策として、まさに起死回生の切り札と考えられ、具体的には、交流人口の増大による新たな産業の創出や経済活動への効果が生まれます。また、豊かな自然環境や歴史遺産を活かしながら、受け継がれてきた暮らし

や生業とのバランスに配慮しながらの持続可能な地域活性化策まで夢は広がっていくと思われ

行政としての課題

長崎の教会群が世界遺産に登録されると、来訪者が一挙に急増するのは必至であり、構成資産の活用という裏側では、日常的な管理と永続的な保全が求め

られ、その所有者や集落などは、新たな課題に直面しようとしています。すなわち、来訪者に対する受付や管理体制の整備（予約・受付・教会守・警備）に伴う費用や、文化財そのものの老朽化に伴う補修や修復費用なども相当額に上り、小教区はもとより大司教区としても単純に解決できるものではありません。加えて、教会という「祈りの家」として大切に守られるべき現役施設であるがゆえに、各種宗教行事との調整や雑踏化することへの一部信者の反発など、抱える課題も少なくありません。かといって、基本的に教会は開かれた存在であり、来訪者を温かく迎え入れるのが望ましく、高見大司教様も福音化に貢献する立場から、入場制限や入場料を取ることに懸念を表明しています。

また、集落にあっては、次第に高齢化する景観の保持や田畑の荒廃対策、さらに脈々と続く生業やコミュニティの維持については、喫緊の課題でもあります。

このように、目前に迫る諸課題について、県内各地の構成資産を抱える所有者や自治体の苦悩は延々と続くと思われ

地域人としての課題

先に述べたように、地域活性化などへの大きな期待とは裏腹にそのリスクも大きいことから、いかに戦略的に仕組みを構築していくか、信徒や構成資産に関係する人たちと我々行政との連携が重要となってきます。特に、行政内部にあっては、文化財部局と観光部局、物産、地域協働、農林水産、建設、都市計画などの各種施策の調整が必要で、つまり全体を俯瞰した共通目標を共有しなければなりません。

そこで、我々のこれまでの経験上感じたことを以下に述べてみます。まず、何をやるにしても、わが町に対して無関心であり、誇りを持っていない人が多ければ集落での活動は冷めていくばかりであり、町に興味を持ち、ポジティブな状態の人々が互いに関係し合う状態が継続されることこそ、町が活性化している状態だといえるのです。

そのため1点目には、商売人でない住民は、なぜ自らの利益として還元されない街づくり活動をしなければならないのかと思ってしまう。瞬間的にやる気にさせても持続性に課題が残る場合も多く、街づくりの話をし給料をもらえる公務員との立場の違いを認識することが重要です。従って、住民側の疑問に明確に説明し、納得してもらえない限り解決しない課題と認識すべきです。

2点目は、さまざまな街づくりの話とダ

づることが多く、いわば同じ類のものであると認識されていることです。住民は過疎化が深刻だといわれてきたその地で集落組織を維持するとともに、生活生業を営んできた知恵と力を持つわけですから、行政がいう「うわべの街づくり」に興味を示さないのも当然だと思ふのです。従って、その課題解決のために、果たして新しい視点で、しかも各施策間で整合を図りつつ創造的に考えたか、ということに常に気に留めておく必要があるということです。

3点目は、住民に我々を信頼できると思ってもらえるコミュニケーション力の重要性です。一般的に3〜4年で異動する我々の何を信頼したらよいのかと疑問を抱く住民がいるのは当たり前で、地域を救うどころかそれまで集落でかろうじて維持されてきた仕組みをも壊してしまうことのないように、誰が担当者になっても継続できる行政組織をつくり、高い人間性をもつコミュニケーション力を基礎とした信頼関係を構築していく必要があります。そうしないと、せっかくの計画も地域で動くはずがないからです。

まとめ

いろいろ書いてみましたが、私としては次の3点にまとめてみます。

1点目は、構成資産関係者との「目標意識」や「情報」の共有は極めて重要であ

日本司教団の使徒座定期訪問



3月20日、26日、日本司教団の使徒座定期訪問（アド・リミナ）が行われた。この聖ペトロと聖パウロの墓参り・教皇謁見・教皇庁訪問は、本来

5年に一度行われるが、今回は事情により7年ぶりであった。教皇謁見はこれまで個別と全員でも行われたが、今回は教皇を中心

に全司教が輪になって自由に意見交換するという形で1時間余り行われた。最初に教皇と個別の記念撮影を行った後、高見三明大司教は日本の信

徒発見150周年記念行事への特使派遣を感謝し、記念メダルなどを献呈した。最後に教皇の祝福・全員での記念撮影と続き、教皇からメダルとロザリオをいただいた。国務省、典礼秘跡省、福音宣教省は全員で訪問したが、他の省や評議会の

聖香油ミサと司祭の日

3月31日（火）高見三明大司教司式による聖香油ミサが浦上教会で行われ、司祭90人余と大勢の信徒、修道者が参列した。このミサは本来、聖木曜日の典礼であるが、現在は司牧的な理由から受難の火曜日にさげられている。

大司教は説教の中で「司祭であるキリスト」に触れ、十字架上でいけにえとなって神と民を和解させた祭司、力ある神の言葉語る預言者、いのちを与える王としての姿を常に心に留めて、日々努力するようにと諭



した。ミサの様になる叙階でした。司祭になつて、時には有頂天になつていたかもしれ

ません。本日の仕える司祭になれるようこれからも努力していきたい」とあいさつした。会場を信徒会館に移して「司祭の日」の祝賀会が開かれ、高見大司教からそれぞれの節目を迎えた司祭に記念品が手渡された。25周年の平本義和師は「使い勝手が悪かったにもかかわらず使い続けてくださった大司教様に感謝しております。本物の司祭となれるように、ご列席の皆さん、これからもお祈りください」と感謝を述べた。

り、登録するしないに関わらず、構成資産を核とした街づくり計画が住民に受け入れられ、理由も含め正当性をもった計画に仕上げていくことが大切です。

2点目は、これまで策定されてきた多くの計画とは違う創造性を持つていと感じてもらふことです。つまり、資産の保存から今の生活そのものへ、外観の保存から地域が、また「組織が、今の文化的景観を継承していける仕組みの構築が必要です。それは、結果的に独自の魅力があるからこそ人を惹きつけることにつながるからです。

3点目は、我々担当者の人間性です。つまり熱意と論理を併せ持ち、その思いを伝える能力を持ち続けることが必要なのです。そうすることで、構成資産をもつ計画対象区域の住民や行政の関係部局からも信頼され、目標とする地域の活性化が図られるように誘導していきたいと考えています。

これからますます慌しくなっていく一方で、私自身、小規模小教区の維持や信者間の連帯感の希薄化など、現代特有の現実を目を向けながら、今信者として何をすべきか、行政として何ができるかを、常に真剣かつ前向きに向き合っていきたいと思っています。

*松田隆也さんは4月1日付で、平戸市文化観光部部長から監査・選管事務局局長に異動されました。（広報委員会）

日本二十六聖人 巡礼の歩みを終えて



ルの高槻教会へと歩みを進め、感謝のミサにあずかりました。あれから8年、団長(学校長)をはじめ、明星カトリック研究部現役生・OB・学校関係者・家族・姉妹校(長崎海星、東京暁星関係者)・大阪教区信徒の皆さんは、総歩行距離約900kmを歩き通し、3月21日(土)ついに長崎・西坂の丘にたどり着くことができました——参加延べ人数821人、巡礼回数は偶然にも26回、訪問教会26、日数46日、皆勤者(完歩者)10人(最高齢81歳、最年少参加者4歳)。奇しくも長崎では、信徒発見150周年をお祝いされた記念すべき日の直後のこととなりました。

私たち大阪明星学園カトリック研究部は創部50周年(1955年創部)を記念して、日本二十六聖人が歩んだ道をできるだけ忠実に歩いてたどろうと計画を立てました。年間約100km、約10年間の達成を目指しました。

第1回は2007年1月6日、京都のフランシスコの家での派遣のミサ後、中学1年生から73歳までの総勢34人は冷たい雨の降りそそぐ中、ゴー

失望から希望と喜びへ

「この二人も旅の途中で起こったことや、パンを手で分けたとき、イエスだと気づいた次第を物語った。」(ルカ24・35)

命のパンをめぐって、イエスの弟子たちが短時間のうちに心の変化を遂げてゆく姿が聖書に描かれています。

議論しながら、二人の弟子がエマオという村に向かって歩いていました。エルサレムでの出来事の中で二人の心は暗く、恐れと失望の気持ちに包まれていた時に、復活したイエスが近づいてきて、聖書のみことばを説明してくださったのです。ところがその方がイエスである気がつきません。彼らの目はささぎられていたのです。ヨハネが福音書の冒頭で「みことばは人となった」と述べています。勿論この「みことば」は私たちが話す「言葉」という意味ではなく、イエスが人間になる前の存在を

年間には東日本大震災が起こり、尊い人命が奪われ、今なお、20万人以上の方が避難生活をされています。巡礼中、毎回皆で犠牲者・被災者のために祈りを捧げ、カトリック研究部員もこの間、何度となく被災地を訪れ被災者の皆さんと寄り添ってまいりました。

「いつも共にいてくださる」神を感じながら、この巡礼を終えたこと、同志に感謝。神に感謝。大阪明星学園カトリック研究部

聖母訪問会感謝ミサ

聖母訪問会時津修道院

が3月をもって閉鎖することを受け、3月22日(日)時津教会において、聖母訪問会感謝ミサが行われました。米田ミチル総長様(写真左)をお招きしてシスター方へ感謝をささげ、信徒一同、年の黙想会の実りに合わせ、恩恵と祝福に一層あずかることができました。

さかのぼること36年前の1979(昭和54)年10月に献堂された時津教会は、81年に滑石小教区より独立しました。聖母訪問会時津修道院が、聖



堂のすぐ脇にアットホームな修道院として誕生したのは、独立の前年、80年6月のことでした。35年の間、本部から派遣された34人のシスター方は、私たち信徒と交わり、支えてくださいました。特に心温まる公教要理のご指導、信徒がミサにあずかりやすくなるために冷暖房を入れて、ミサの準備をしてくださったことを思い出します。

中高生の皆さん One Fifty Camp に参加しませんか

One Fifty ty Campとは、日本の信徒発見150周年を記念して今年の夏に長崎教区の青年有志が主催する中高生キャンプです。わたしたち青年は、信者として、また生徒として、みんな思いを抱いている皆さんが、その思いを「なかも」と分かち合い、見、聞き、感じることによって、

教会に「自分の居場所」を持つことができるよう、このキャンプを計画しました。また同年代だけでなく、年の近いわたしたち青年ス

対象 中学生・高校生(もしくは18歳以下)
定員 30人(*定員で締切)
締切 6月21日(日)
申込先 本鉢教会(〒850・0077 長崎市小瀬戸町86)
申込用紙は各教会にて代表・宮川広樹 nagasaki.youth.mail@gmail.com
主催 信徒発見150周年記念企画中高生キャンプ実行委員会
後援 教区青少年委員会

テーマ CROSSING
——現代の信徒発見
期間 7月31日(金)〜8月2日(日)
場所 聖母の騎士修道院・志願院

神学生・志願生のためにお祈りを

今春、進学した長崎教区神学生および教区内の神学校・志願院に入学した者は左記の通り。

◆日本カトリック神学院
哲学科1年 西田祐尚 (鮑ノ浦)
◆福岡コレジオ
大学1年 池田裕輝 (植松)

◆長崎カトリック神学院
中学1年 岩永魁世 (神ノ島)
武本寧央 (小ヶ倉)
鶴崎大鳳 (黒島)
◆お告げのマリア修道会
中学1年 久家優菜 (相浦)
山口 泉 (城山)

信仰養成講座修了式

来年度からカテキスタを務める田川正里さんが修了者を代表して感謝を述べ、「子どもたちにどのように向き合えばいいのか、とても不安ですが、中濱敬司神父様がおっしゃられた『子どもたちが育ててくれます』という言葉に希望を持って謙虚に学びながら、チャレンジしていきたいと思っています」と決意を語った。



要理教師は次の通り。
グエン・ティ・ガー(けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会)、清水恵子、田川正里子、泊京子、橋本昭美(以上、八幡町教会)、松崎由美(愛宕教会)。

短 信

(名古屋教区)

教皇フランシスコは3月29日、野村純一司教の定年による教区長辞任に伴い、名古屋教区の新しい司教として、松浦悟郎司教(大阪大司教区補佐司教)を任命したと発表した。着座式は6月13日13時から布池教会で行われる。松浦司教は1952年9月28日名古屋生まれ。62歳。81年3月21日司教叙階。99年7月17日司教叙階。

いづつ園

◆雲仙殉教祭 5月17日(日)、雲仙メモリアルホール。13時開会、13時30分ミサ、15時巡礼。

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 6月11日(木)〜17日(木) (5/27締切)
- 7月9日(木)〜15日(木) (6/17締切)
- 8月20日(木)〜26日(木) (7/29締切)

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。
TEL 095-842-4450 FAX 095-842-4460

講演会「信仰生活とおしゃれ」

「人は見た目が9割」。人は外見で他人を判断するものだといわれています。大切なのはその人自身の中身のはずですが、人の考え方や心の状態は外見に表れます。

銀行員だったルラさんは、信仰を外見にも表すことが大切であることに気づき、ファッションの分野に転職しました。私たちの信仰の素晴らしさを外見に美しく映し出しましょう。

- ・日 時 6月28日(日) 13時〜14時30分
- ・場 所 カトリックセンター ホール
- ・講 師 ルラ キア氏(スタイルイノベーター)
- ・参加費 無料
- ・主 催 長崎中地区評議会 女性部



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

石 碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

なが さき せき ちょう
長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル



日本語字幕版 DVD 定価3,000円(税抜)